

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大阪市立大学付属植物園で植物のさまざまな興味深い話を聞く（3ページに関連記事）

Contents

- 緑の地球ネットワーク第19回会員総会報告 P 2
- 自然と親しむ会報告 P 3
- 森とつきあう（会員総会記念講演） P 4
- 宇久須合宿報告 P 7

2013.7
152

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

第19回会員総会の報告

6月15日、大阪市立総合生涯学習センター第1研修室にて、緑の地球ネットワーク第19回会員総会が開かれました。

会員496名（団体を含む）のうち出席者53名、委任状提出84名、書面参加186名、合計323名で総会が成立しました。

【議事】

2012年度事業報告・決算・監査報告とその承認、2013年度事業計画と予算の提案とその承認、役員改選の提案と承認が行なわれました。

新役員については以下のとおりです。

なお、会田伸子さん、白川洋二さん、福本麻衣さんが役員を退任しました。

【第17期役員】

○代表 前中久行
○副代表 川島和義
○監査 池場道明／早草晋
○事務局長 高見邦雄
○会計 東川貴子
○世話人 上田信／太田房子／河本公子／神吉久永／巽良生／永島智子／藤沼潤一／藤原國雄／干場革治／松島清／松永光平／宮崎いずみ／宮本敏幸／向井美香／村松弘一



○顧問 石原忠一／小川眞／桜井尚武／遠田宏

【懇親会】

会員総会終了後、会場を変えて食事とお酒を交えた懇親会をおこないました。37名が参加し、にぎやかに談笑を楽しみました。

さらなる仲間の輪を広げよう 会員拡大にご協力ください

■会員拡大にご協力を！

GENは現在日中間の対立、会員の高齢化、会員数の減少傾向など厳しい状況が続いています。今年の会員総会の報告をうけて、会員の一人から「会計状況が厳しい状態なので解決策として会費の値上げなど検討してはどうか」という意見がだされましたが、GENの会費は安くないので会費の値上げは考えておりません。そのかわりに、経済的に余裕のあるかたは賛助会員になっていただく、または会費を複数口お納めいただくなどご協力をいただけると幸いです。

同時に会員の拡大にもご協力ください。GENのリーフレットや活動紹介DVDなどを無料で配布していますので、会費拡大のツールとしてご活用いただけます。必要なかたはお送りしますのでGENまでご連絡ください。環境問題や国際協力に関心をお持ちのお知り合いにおすすめていただけるとありがたいです。

おひとりおひとりの力がGENの活動

の原動力となっています。ご協力をお願いします。

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000円
家族会員（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。みなさんの応援をお願いします。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない使途自由のご寄付も受付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の20%は事務管理費になり

ます。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

* * * * *

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官に認定された認定NPO法人です。（期限は2014年5月31日まで）。

GENへの寄付は、所得控除ある／

5月の植物園を訪問して

池田 利行（大阪市）



5月19日、前中代表の案内で大阪市立大学付属植物園を見学しました。31名が参加し、さまざまな植物の観察を楽しみました。

淀川の事務所で「これ、先日話していた自然観察のチラシよ！」と1枚の紙切れを向井美香さんから渡されました。たしかに先日そのような話を聞いた覚えがあり、「分かった」とだけ答え、そのチラシを持ち帰りました。建築の仕事をしている関係上木に接する機会が多く、また趣味で仏像彫刻をしているので、木という素材にはとても愛着をもっています。そのような訳で樹木に対する興味はとてもしっかりと心に留めていました。申込日が差し迫り如何しようかと考え、電話で「美香さん、19日行くの？」と尋ねると「私は行くよ」との返事でしたので、「美香さんが行くのだったら行くわ」と返答しました。どのような木が見れて、どんな話が聞けるかと胸がわくわく、反面どのような会かも分からず、初対

面の人たちだけなのですこし不安な気持ちかがガッちゃんコの前日でした。

さて、当日は朝から晴天でしたが、週間予報で「日曜日は雨です」というのを思い出し新聞を見てみると、やはり午後から傘マーク！まさかこんな晴れの日に雨が降るはずなんて、と思いましたが、カップと傘を持参し出発しました。ちなみに美香さんは、「私はこのつばの付いた素敵な帽子があるから雨なんて平気よ！」と言っていました。私市駅前集合場所に行く、思ったよりたくさんの参加者がいて驚きました。総勢30名はいたように思います。

植物園の入口でパンフレットを渡され、いざ出発。前中先生が先頭を歩き、その後を参加者がついて行き、ところどころで立ち止まり、生えている植物の説明をされました。草花や樹木の種類や属性、名前の由来、特徴を詳しく教えていただき大変参考になりました。昼食後、ぽつぽつと雨が降り出し、途中すこし雨がざわつきましたが、それゆえでんでんむしやアマガエルが現われ、お父さんに連れられてきた子供は大はしゃぎでした。美香さんも大はしゃぎで、アマガエルをボ



バナナの香りがするカラタネオガタマ

ノいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化

基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

大阪市民のかたは市民税控除が受けられます。くわしくはお問合せください。

助成金が決まりました

公益社団法人国土緑化推進機構の緑の募金公募事業で「黄土高原における



ケットにいられて連れて帰りそうな勢いでした。

特に印象深かったのは「呼吸根」と呼ばれるもので、湿地帯に生える樹木は水で根の呼吸ができないため、呼吸根を出してそこから呼吸を行なっているとのことでした。場所によっては見事に呼吸根がたくさん出ている場所があり驚きました。また、日本のアオキが冬場緑の少ない西欧で色鮮やかに育った話など興味は尽きませんでした。大学の植物園という性格上、類似した樹木を比較するために並べて植えていることがあるとの事でした。例えば、ホオノキとトチノキ（葉の形が似ている）、セコイヤとメタセコイヤなどがそうでした。終盤出入口の近くに生えていたカラタネオガタマという樹木にはとても感動しました。前中先生が「この樹木の中に入って香りを嗅いでごらん」と言われたので、めいめい樹木にはいると、「わ～」という歓声があがりました。その理由は、その花からの香ばしいバナナの香りのせいでした。このような樹木があるとは本当に驚きでした。

当初、晴天で1日快適な散策ができるかなと思っていましたが、午後からの雨ですこし、疲れしました。しかし1日爽やかな樹木のもとで森林浴ができ、前日の二日酔いも醒め、有意義な1日を送れました。



GEN 会員総会記念講演抄録

森とつきあう

桜井 尚武（GEN 顧問）

会員総会に先立ち、森林の現場や経営を知り大同に何度も足を運んでいただいている GEN 顧問で元日本森林学会会長の桜井尚武さんに講演していただき、59 名が参加しました。講演の概要をご紹介します。（文責＝編集部）



●森に対する人の意識

森林について林業白書などは山崩れや洪水などの災害を防ぐ、二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防ぐ、水資源を蓄える、空気をきれいにし騒音を和らげる、心身の癒しに役立つ、といった効能をあげています。10 年余り前は木材生産への評価は低かったんですが、最近は木材を使うことが森林の保護になるという考えが受け入れられつつあります。

森が荒廃しているという人は多いけど、山に入って体感し、実際を知っている人は少ないと思います。いま森林のことがよく取り上げられるのは、森林が危なくなってきたからではないでしょうか。農業もそうで、食べ物がなかったら、日本人は生きていけないけど、お金を出してよその国から食糧を買えているうちは危機感がありません。

里山が荒れているとは私は思いません。里山が里山でなくなり、里山でない山に変化している、そう思っています。森林のいろんな資源が別のものに代替されました。柱はコンクリートになり、テーブルなんかはプラスチックその他に代替された。それを可能にしたのが工業と貿易立国です。体を使わないで頭を使うようになった結果、成人病や精神病が増えた。でも昔のような農業林業の生活でも、長生きではなかったんですね。

●第一次産業の現状

2009 年の農業総生産額は 8 兆 2 千億円で、GDP490 兆円の 1.7%、林業の

それは 4100 億円で、0.08%に過ぎません。日本の便利な生活は工業製品と都市型産業に依拠しており、海外に出る企業も増えています。農林などの一次生産物は自然に依拠した労働多投資型で、賃金の安い非工業国でも可能です。賃金の高い先進工業国には競争力がなく、よそから買えばいいということになります。林業の再生は難しい問題です。E.P. オダムというアメリカの生態学者がゴーストエーカリッジ（幽霊の土地）説を唱えました。日本は面積が小さくて、人口が多い。土地の全てで食糧を作っても足りないので、貿易で稼いだ金で食糧を買っている。そういうものは長続きしないということです。

日本には 2500 万 ha の森林があり、うち 1000 万 ha は人工林で、その半分以上が柱を作る太さになり、間伐が必要な状態です。資源はあるんです。これを使うことで生産力を維持しないと、その担い手も知識もなくなってしまいます。

●森林生態系とは

森とつきあうには、まず森を自分で体験して、生態系を構成する要素を知ることが必要です。環境があり、生物がいる、そのまとまりを生態系と呼ぶなら、生態系が壊れることはありません。でも、それが安定しているかどうかとなると話は別です。生態系を構成する要素は極めて多く、複雑で、場所によっても大きく異なります。それを統一的に理解することは無理なくらいです。

地球誕生から 45 億年がたち、40 ～ 38 億年前に最初の生命ができ、28 ～ 27 億年前に酸素を作るシアノバクテリアが生まれ、5 億年前に生物が陸上に上がった。やがて森林ができてきました。

その地球の北半球の中緯度

のところには 3700 万 ha の面積をもつ日本があり、そこにいまのような森林生態系が成り立っている。まずは植物があり、光合成をして、有機物を作る。二酸化炭素の 6 分子と水 12 分子に太陽エネルギーを作用させて C₆H₁₂O₆ という蔗糖を作るわけです。そのときに酸素と水がでてくる。シアノバクテリアから 27 億年かけて地球大気に 19 ～ 20%の酸素ができた。二酸化炭素はどんどん減って 0.003%、産業革命のころには 280ppm つまり 100 万分の 280 です。

二酸化炭素が微量になると、植物の光合成力が落ちます。二酸化炭素を与えると生産性が高まるので、二酸化炭素施肥という農業技術が出てきた。ハウスを建て、なかで石油を燃やし、二酸化炭素濃度を 1000ppm に高めると、植物の生長量が増えます。石油を作物に変えて食べるようなもので、こんな農業、こんな経済はおかしいんじゃないかと考えるのも大切なことです。

光合成をするのは葉緑体をもつ植物です。これが森林生態系の立役者で生産者です。植物が有機物を作ると、自分は生産できないけど、植物の生産する有機物に依拠して生きる動物がでてきます。そしてさまざまに進化していく。ダーウィンは進化という言葉をきらったそうで、とにかく変化していく、変化したものが環境に適合できるかどうかで生き残るかどうかが決まる。その動物を食べて、より効率的に生きてい



く肉食動物が出てくる。

しかしその動物も植物も、生命には限りがあり、やがて死ぬ。その遺体を分解して二酸化炭素と水に戻してくれる生き物、それが微生物です。その間に介在するのが呼吸です。生命体が酸素を取り入れて有機物を燃やし（酸化し）、生きるためのエネルギーを得ているわけです。

ここで生態系ピラミッドに触れておきます。一番上に食われずに食う存在があります。たとえばタカです。タカは小鳥やヘビを食べますが、ヘビや小鳥もバッタやカマキリを食べる。カマキリもトンボや虫を食べますし、虫は植物を食べる。その下に微生物がいるという図です。

一番上をアンブレラ種と呼びますが、それが生きるためにはその下の存在が大事です。下が大量に、重量にして 10 倍いないとアンブレラ種は存続できません。タカ 1 に対して、小鳥やヘビが 10 以上、小鳥やヘビ 1 に対してバッタやカマキリ 10 以上、といった具合です。アンブレラ種の存在は生物界の安定の象徴なんです。

では人間はどうか。以前に国際生物学事業計画（IBP）が地球上の植物生産量を調査しました。最終報告まではいきませんでした。70 億くらいが限界ではないかと言われました。その限界にきているわけですね。

●天然林と自然林

天然林か人工林か、広葉樹か針葉樹か、といった議論もあります。25 ～ 30 年くらい前までは人工林、針葉樹が大事だと言っていたのが、最近は天然林、広葉樹がいいと変化しました。その大本には木材を輸入に頼るようになり、自国の材木を使わなくなったことがあります。植物は気候や地質、そして標高にも規定されますから、あるべきところに、いろんなものがあるのがいいと思うのです。

●東日本大震災の被災地を訪ねて

4 月に小川眞先生たちと一緒に東北を訪ねました。被災地近くで採った種を使って、京都でマツ苗を育てていたんですけど、その苗を名取の「ゆりりん愛護会」の苗畑に植えたのです。6 月にまた行ってみると、一部に枯れてい

るものがあります。植えるのが浅すぎて、根が浮いていました。大部分は大丈夫ですが、これからは草との戦いです。今年一年でマツはせいぜい 20cm ですが、草は 50 ～ 100cm は伸びます。

陸前高田の「高田松原を守る会」の苗畑にも行きました。育種センターのマツクイムシ抵抗性の苗を見たり、鹿の被害が大変なので網をかけたり、近所で取ったマツのタネをまいているのを見ました。森は海の恋人植樹祭にも行きました。

市長、県会議員、子どももいっぱい来ていました。関東ブランチの人もきています。畠山重篤さんがなかなかいい話をしていました。文句のある人もいるでしょうけど、お祭りですから細かいことは言わないで遊んだらいい。大事なのは集まって森でなにかをするという体験で、結果的に森が残ればいいんです。

植えた木の面倒を見となると草刈りが大変です。20 種類以上の広葉樹を植えました。植えた木が草かがわからないで、植えたものを切っちゃうかもしれない。だったら放っておけばいい。生き残るものを生かして、あとは自然の力に委ねよう、人間がいなくても自然に動いていくんだ、と考えるのも森とつきあう方法のひとつです。

2012 年にも植樹祭に行き、高田松原の波打ち際のマツを見ました。太いマツが上のほうで折れていますが、太い根ががっしりと砂浜に潜っています。



写真提供：小川眞さん

地面が 70cm ほど沈下し、砂が波に洗い流されて、根が出ています。マツは役に立たなかった、むしろ被害を拡大させたと新聞に書いた人がいますが、実際には根を踏ん張って、津波と戦った



のです。いろんな人に知ってもらいたいですね。

岩沼市に行くと「千年希望の丘」があって、土手を作って、タブノキ、カシなどいろいろ植えていました。宮脇式と言うそうですが、「千年希望の丘」と最初に言ったのは石川幹子さんです。岩沼市出身で、東大や、慶応の先生をした人で、私も関係している森林文化協会の本にも書いてもらいました。津波直後のことが「海岸線から 1km 以内では激害であり、2km くらいでは勢いが減衰し、2 ～ 3m くらいの津波で被害を免れた家屋と浸水家屋が混在していた」とあります。がれきの中に、わずかでも高くなっている神社、塚などが被害を受けていなかった。居久根という屋敷林のある家がいいと考えたそうです。

波打ち際近くに防潮堤をつくり、その内側にマツを植え、さらにその陸側に何本もの堤防をつくる。一直線に結ぶ堤防ではなく、堤防と堤防の間に隙間をつくり、それを抜ける間に水の勢いを弱める。そこがれきを埋めたりし、上にケヤキ、ヤマザクラ、シロダモなどを植える。そういう構想なんです。

林を作るに際して、最終的にどういう林を目指すか、目標が必要でしょう。緑の地球ネットワークが中国でやっているものでも、できるだけ自然力に任せる南天門自然植物園があり、しっかり植えて育てる采涼山やカササギの森があります。なにもしないというのも、大事な山の手入れなのですね。それで 100 年後、500 年後にどういう林ができ

るか。

原植生は人間がまだ少なく、自然に影響を及ぼさなかった時代の植生です。その後、人がいろいろやったことの結果として現在の、代替植生があります。できるだけ人の影響を少なくして、もともとそこにあった自然の植生を取り戻そうとする宮脇昭さんのような人がいて、仙台あたりの神社に大きなタブノキがあるから、あれがいけるといいです。その一方、先人が数百年かけていろいろなものを海岸に植えた結果、常緑広葉樹による砂防造林は成功しなかったという知識を林野関係者はもっているわけです。

森は海の恋人植樹祭では20種くらいを植えていました。どういう基準で選んだのかときくと、牡蛎を育てるのにいいのはブナで、スギ、ヒノキ、マツはよくない、できるだけ多くの広葉樹を植える、ということのようです。細かいことは言わないで、森を身近に感じ、森で遊ぶことが重要なんです。苗をちょっと植え、あとは食べたり飲んだりする。自然は思うようにはならないんで、その限界を理解した上で、楽しくつきあう。

●大同の今後に期待

3月に高見さんと大同に行きました。



カササギの森ではマツが順調に伸びていますが、おもしろかったのはナラです。これまで地面をはうようにしていたのに、急に伸び始めた。よく見ると、もとの幹をウサギにかみ切れ、その横からでたものがよく伸びている。台切りという林業技術があって、地上部を一旦切つてやると、その後に出てくるものがよく伸びる。同じ効果かどうかよくわかりませんが、あれが育つとおもしろい。



南天門自然植物園では中腹に一本だけ大きなマツがあります。胸高直径60cm、樹高20m超で、条件がよければちゃんと育つということです。稜線まで上がって敷地の裏側をみると、カラマツの林がありますし、マツも育っています。ちゃんと育てれば、中国でもいい林ができることを実感しました。

前中さんが調査区をつくって計測を継続していますが、現地の李向東さんたちも独自の調査区をつくって同じようにやっています。地元の人が、樹木の成長ぶりを自分で調べ、伸びた！とって喜ぶ。山を生き物として扱えるようになったわけで、自立に近づいたといっていいいでしょう。中国林業科学研究院の陳幸良副院長や北京林業大学の教授たちも、感心して見てくれました。

ひとつ文句を言っておきます。数年

前に行ったとき、マツが枯れていました。根を掘ってみたら、根を網袋で包んだ苗を、縛った紐を解かずにそのまま植えたため、その紐が形成層に食い込んで枯れてしまったんです。あそこまで大きくなったものが枯れるのは惜しいことです。植えるときにしっかり注意しないとイケない。

●生き方を見直してみよう

最近感じていることを最後にひとつ。便利な生活はいいことで、楽ができて好きなことができると思っていたのですが、本当なんですか。生活のなかで動かないから、ジムに行って運動しないと生活習慣病になる。添加物入りの食品は腐らなくて便利だけど、危ない面もある。長生きすると、お金がもつか心配になるし、子供との関係が悩ましいといけない。

人間は進化したけれどそのあとの工夫がもっと必要です。寒くなると動物は毛や脂肪を増やしましたが、人間は衣服をきたり、ストーブを使ったりして、自分の体は変化させなかった。最近では火の燃やし方を知らない人、水洗でないとトイレにもいけない人がでてきて、生きるためのエネルギーがなくなっていないかと心配です。

無理なこと、できないことで悩むのはやめて、生き方、考え方を変える、価値観を転換することを追求したいですね。自然や環境を整えることのできる人は、人間の生きる環境を維持向上させることもできるんです。地球とのつきあい、森林とのつきあいを広げるために、みんなで森に行つて楽しもうよ、というふうに繋げていければいいのではないのでしょうか。

会議スタッフ)

日中学生会議は毎年夏に日中の大学生の共同生活と議論を通じた交流活動をおこなっています。今回は今年の夏に行なわれたプログラムについてご紹介します。

夏のスタディツアーの報告会もあわせておこないます。

GEN 関東 brunch 今後の予定

関東 brunch 月例会のご案内です。原則として、土曜日の15時から18時ごろ、立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室でおこなっています。

参加費無料、事前申し込み不要です。GEN 会員以外の方もご参加いただけます。

す。どうぞふるってご参加ください。

月例会の後に懇親会があります。

★8月は休会

【9月】

9月28日(土)『日中学生交流の可能性(仮)』高田和寧さん(日中学生

報告 農産業とまちづくりについて考えた3日間

関野 治奈 (立教大学文学部)



5月10日から12日にかけて、GEN 関東 brunch 「第4回春の宇久須合宿」が西伊豆の宇久須で行われました。山と海に挟まれ自然の気配につつまれた春の宇久須は、穏やかな日差しと草木の緑が美しかったです。

10日は夕方宿舎に集まり、そのあと近くのレストラン「カネジョウ」で海鮮 BBQ をいただきました。

次の日の午前中は土肥高校に行つてバイオセラピーの圃場を見学し、午後は西伊豆町スローライフ部会主催・緑の地球ネットワーク (GEN) 関東 brunch 共催の講演会に参加しました。立教大学文学部教授の上田信先生、以前建設業者にお勤めになっていた橋谷勇治さんと株式会社ベックを運営されている長尾勉さんの3人の方がたから、

地域をそこにいる人たちの手によって盛り立てていくために何をしていくかを語っていただきました。

その夜は合宿所で懇親会が行われ、地域の方がたにも来ていただき、たいへん盛り上がりしました。地元の方がたと楽しくお話する機会に恵まれたことで、町の様子やそこで暮らしている方がたがどんなことに喜びを感じてい

るかといったこと、また伊豆の魅力について知ることができました。

翌日の12日はGEN 管理圃場で作業をしました。ヤーコンの植え付けは雨の影響で延期になりましたが、手動油圧薪割機も使いながら薪を割って火をおこし、無煙炭化器を使って炭を作りました。作業の後はおいしい猪鍋をご馳走になり、猪の肉は豚の角煮をさらにこつてりさせたような感じでとても濃厚な味でした。地元のおいしいものをご馳走になりながら、農産業と西伊豆町のまちづくりについて考える3日間でした。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

秋の生駒山でキノコ観察をしよう

秋の生駒山でハイキングをしながらキノコの観察をしませんか。土壌微生物の研究をしている栗栖敏浩さんに案内していただきます。

○日時：10月19日(土)

○集合：10時に近鉄生駒駅集合

○案内：栗栖敏浩さん(株)環境総合テクノス環境部、樹木医)

○参加費：300円

○定員：20名

○申込み：10月16日(水)までに

氏名・年齢・連絡先を GEN 事務所までお知らせください。※小雨決行



会員総会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。

○会費の支払いに関して、いま払いたいとしても2年とか3年分一括がないのは良くない。その場合は2口申込というのだろうが、来年度払えなくなったら会員でいられない。太く短くでなく、細く長く、たとえ死んだとしても会員でいられるように複数年一括先払いの

システムを作ることを強く提案し、要求するものであります。(T.R)
▲会費を何年分まとめてお支払いいただくときは、何年分、と添えてお支払いいただければけっこうです。○遠方より“活力に満ちた総会”となることを祈念いたします。GENのご支援を受け、被災地も一步一步前進しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。(O.N)
○毎度出席できず、申し訳ありません。最悪の日中関係のなか、両国の関係者が参加して予定どおり記念行事が行われたことは誠に喜ばしいと存じます。これもひとえに皆さまの努力のたまものと存じ、感謝申し上げます。大

同事務所もたび重なる移転などで大変だと思いますが、中国にもさまざまな公益財団や寄付のルートがでてきていると聞きますので中国内での資金調達の道も考慮できるのではと思います。(M.N)

▲中国国内での募金活動は制度の違いでなかなかすぐに実現することは難しいですが、そのうち追求できたら、と思っています。

○中国のめざましい発展と負の諸情報に、いままでどおり GEN の会員でいることに消極的になっていたのが本音です。でも今回良心的で細かい事業報告や計画等々読ませていただき、会員であることに(次ページへつづく)



自然環境市民大学 1 日体験入学

自然環境市民大学の講座を 1 コマ体験してみませんか。

- 参加費：300 円（資料代・保険料を含む）
- 先着若干名。1 人 2 回まで受講可能
- 問合せ・申込み：公益社団法人 大阪自然環境保全協会市民大学係（〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202 号室
tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103
E-mail: office@nature.or.jp URL
http://www.nature.or.jp）
- 対象講座
- ◇8 月 7 日（水）「ツバメの塘入り」
京阪観月橋（午後 6 時集合）
- ◇9 月 7 日（土）「野鳥②」南港野鳥園
- ◇9 月 11 日（水）「植物②」泉北・光明池
- ◇9 月 25 日（水）「金剛山の自然」
- ◇10 月 2 日（水）「昆虫②」葛城古道
- ◇11 月 2 日（土）「野生動物との共存」
奈良公園
- ◇11 月 6 日（水）「淀川の自然回復」

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 淀川左岸（樟葉～枚方へ）
- ◇11 月 13 日（水）「地域の保全活動」
富田林 奥の谷
- ◇1 月 22 日（水）「保全運動」信太山丘陵
- ◇2 月 19 日（水）「哺乳類」箕面鉢伏山または青貝山
- ※受講時間は 10 時～15 時 30 分頃、原則雨天決行。詳しくは主催者へお問い合わせください。

東日本大震災から 2 年 支援活動の今後を考える

今後の被災地支援のあり方をどのようにすすめていくべきか、一緒に考えるシンポジウムです。

- 日時：7 月 29 日（月）午後 6 時 30 分～9 時
- 場所：大阪市立大学梅田サテライト 101 教室（大阪駅前第 2 ビル 6 階）
- 講師：菅原昭彦さん（気仙沼市震災復興会議委員）司会：柏木宏さん（大阪市立大学大学院教授）
- 参加費：無料
- 事前申込み：不要

○問合せ：大阪市立大学大学院都市共生社会研究分野 URL <http://www.co-existing.com> E-mail: info@co-existng.com

（前ページからつづく）誇りを感じています。ますますきびしい情勢のなかですが、ご活躍が実を結びますようお願いしています。（K.K）

○海外で中国人ツアー客の傍若無人ぶりはあきれるほどです。日本人の 80% が中国キライと言うのもうなづけます。「なぜ中国で活動？」と大部分のかたが冷たい反応でしょう。でも私たちは地球人。いつか緑あふれる母星になるように今年も健康に気をつけてがんばってください。（K.H）

○現場に根をはり、多少風にゆられようがしっかり枝葉を拡げ続け、またまわりにも輪を広げている活動に敬服します。独自活動を広げるのみならず相手の自立を促す活動も多くなると思いますが、長年の信頼関係のうえに持続的なかたちができることを願っています。（S.M）